

糖尿病治療の最前線

数値が下がっても 合併症は起こる

不規則なコントロールで網膜症を発症したYさんのケース



担当医 久保 明

医学博士・
糖尿病内分泌専門医
東海大学医学部教授
高輪メディカルクリニック院長

患者氏名	Y・N様	年齢	61歳	性別	女性	現病歴	糖尿病、糖尿病性網膜症
------	------	----	-----	----	----	-----	-------------

今

回は、血糖値のコントロールがうまくいって数値がよくなっても、油断は禁物というお話です。

Yさんは45歳のときに糖尿病と診断され、以来、数値が上がったり下がったりを繰り返してきました。10年ほど前、クリニックにいられたときの数値は、血糖値が312mg/dl、ヘモグロビンA1cは13.8%でした。インスリン注射はいやだとおっしゃるので、飲み薬で治療を続けたところ、3年後には血糖値が206mg/dl、ヘモグロビンA1cは7%に下がりました。

これでもまだ正常値にはなっていないのですが、ご本人は「いい数値になった」と安心して気がゆるんだようです。コントロールがうまくいかず、再び数値が上がってしまいました。「これではいけない」と、その後食事や運動に気をつけたところ、ようやくヘモグロビンA1cが7.5%にまで戻りました。

ところが、ひと安心と思っていた矢先のこと、Yさんは眼科で糖尿病性網膜症を指摘されてしまいます。「数値が下がったのになぜ今、合併症が？」と納得いかない様子ですが、これにはちゃんとした理由があります。

網膜症や腎症などの合併症は、血糖値が高い状態の積み重ねによって起ります。ですから、かつて数値が高かったことがある人は、たとえ今数値がよくなっても、決して油断はできないのです。Yさんのように、上がったたり下がったり不規則なコントロールをされてきた方は、なおさら慎重にならなければいけません。

数値がよくなると、悪かったときのことはつい忘れてしまうものです。ですが、合併症の発症と血糖値にはタイムラグ(時差)があります。そのことをよく認識したうえで、コントロールを心がけていただきたいものです。